



くらしの中のSDGs

Vol.15

人のつながりで健康づくり

今月のテーマ (ゴール3) すべての人に健康と福祉を

いつまでもみんなが健やかに暮らせる高知市をめざして、第三期高知市健康づくり計画を令和6年3月に策定しました。その基本理念の一つは、「地域のつながりの中で、自然に心豊かな暮らしができるまち」です。健康への関心が薄い人も含め、みんなが自然に健康になれるまちづくりを市民や関係者の皆さんとともに進めていきたいと考えています。

バランスの取れた食事、禁煙など、生活習慣の改善に向けて取り組み、継続することは、個人の努力だけでは、なかなか難しいものです。家族や学校・職場といった集団だけでなく、個人の心よりどころになるコミュニティなども含めた社会参加のある生活が、自然に健康的な生活習慣の改善につながります。

いつまでもみんなが健やかに暮らせるまち



お問い合わせ「健康増進課」 8803380005

撮りだち photo スNews

まちの出来事を写真でお届け



4月5日(金) 高知市と高知ヤクルト販売株が包括連携協定を締結

暮らしの安心・安全、市民活動の推進などの6項目で相互に連携協力し、地域の活性化および市民サービスの向上を図るため、包括連携協定を締結しました。



4月6日(土) 土佐の三大奇祭 どんご祭り

長浜の若宮八幡宮で開催された「どんご祭り」には、本市の地域おこし協力隊も参加。女性が男性の顔に泥を塗ることで、豊作と無病息災を願いました。



4月6日(土) 花と灯りで彩る高知城花回廊

華道15流派による生け花や、土佐和紙を使った250基の灯籠で彩られた高知城。観光客や家族連れなど多くの人が来場し、幻想的な空間を堪能しました。



4月7日(日) 七ツ瀬特産のタケノコを児童が収穫体験

秦小学校の児童14人がタケノコの収穫体験に参加。収穫後はタケノコご飯などが振る舞われ、地域の皆さんと一緒に山里の春を味わいました。



4月14日(日) 高知競輪開設74周年記念よさこい賞争覇戦

国内トップのS級S班4選手のほか、約100人の選手が参戦。繰り広げられる熱戦に会場のおちろちろから歓声が上がりました。



4月20日(土) オホーツク北見フェアがひろめ市場で開催

ことは開催日が4月に変更され、この時期ならではの春毛ガニや、生産量日本一のタマネギを使ったコロッケなどを求めに、多くの人が訪れました。

2024 4.1 [月] 4.30 [火]

詳しくは Facebook で♪



市役所の推しゴト!

上下水道局 下水道施設管理課 編

こんな仕事をしている課です

水再生センターの管理 ポンプ場の管理



▲下水道施設管理課の皆さん

その他の業務内容は こちらから



海や川の水質を保全し、水害からまちを守る

水再生センター、ポンプ場、排水機場、農業集落排水施設 合わせて233施設の機能管理をしています。

■私たちが支えています

水再生センター▶皆さんがご自宅などで使い汚れた水を微生物や細菌の動きを利用してきれいにする施設です。毎日、職員が水の状態や微生物の様子を調べ、水質を管理しています。

ポンプ場▶大雨の際に降った雨をくみ上げて海や川に流し、雨によるまちの浸水を防いでいます。いずれの施設でも多くの機械・電気設備が動いており、故障することがないように、日々の点検や計画的な整備を行っています。



試験管内の茶色く濁った水は微生物の塊です。

【問い合わせ】 上下水道局下水道施設管理課 ☎ 882-4538

歴史万華鏡 (139回) 歴史の仙像

歴史に詳しくない方でも「運慶・快慶」と聞けば、筋骨隆々の勇ましい仙像の姿を思い浮かべることができるのではないだろうか。仏師の代名詞ともいえる運慶、快慶が活躍した鎌倉時代は、千三百年を超える日本の仙像史における頂点といっても過言ではない。

その運慶の長男、運慶が制作した仙像が、高知市長浜の雪隠寺に安置されている。国の重要文化財に指定されている毘沙門天立像、吉祥天立像、善膩師童子立像の三軀だ。毘沙門天立像の足柄に墨で書かれた銘文があり、運慶が法印(僧侶の階級の一つ)に就いていた時期に造像したことが判明している。



左から善膩師童子立像、毘沙門天立像、吉祥天立像

運慶のダイナミックな表現から大きく変化し、洗練と柔和の彫刻を作り上げた運慶。仙像は決して言葉や発音が、つぶさに観察することで、偉大な父の跡を継ぎながらも、自分自身の表現に挑み続けた運慶その人の姿が浮かび上がるように思うのである。

運慶のダイナミックな表現から大きく変化し、洗練と柔和の彫刻を作り上げた運慶。仙像は決して言葉や発音が、つぶさに観察することで、偉大な父の跡を継ぎながらも、自分自身の表現に挑み続けた運慶その人の姿が浮かび上がるように思うのである。

県立歴史民俗資料館 学芸員 那須 望